

議員全員協議会

日 時	令和6年1月18日(木) 閉会中	8時54分 開会 10時39分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	議長 16番 村田博英 副議長 15番 原口康之	
	1番 石山和生 2番 谷口恵世 3番 絹村智昭	
	4番 名波和昌 5番 加藤 彰 6番 木村正利	
	7番 松下定弘 8番 種茂和男 9番 濱崎一輝	
	10番 植田博巳 12番 太田佳晴 13番 中野康子	
	14番 大石和央	
欠席議員		
事 務 局	局長 田形正典 書記 植田容子 書記 本杉周平	
説 明 員	市長、副市長、教育長、総務部長、企画政策部長、政策監、 危機管理監、危機管理課長、総務課長、情報交流課長	
傍 聴		

署名 議長

開会の宣告

○議長（村田博英君）

若干早いんですが、皆さん、お集まりのようでございますので、ただいまより議員全員協議会を開催いたします。

2 市長報告

○議長（村田博英君）

まず初めに、市長報告をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

皆さん、おはようございます。

先日15日から17日までの3日間の議会の視察研修、大変お疲れさまでした。

私も同行させていただきましたけれども、人吉市との交流の促進、それから2日目の学校再編、それから跡地利用の利活用、薩摩川内市の協力をいただきまして、大変、有意義な研修だったというふうに思います。

それから、昨日も川内原発の現状もご覧いただきまして、それなりに皆さん、所期の視察の目的を達成されたものと思っております。本当に無事に、皆さんお元気に帰ってこられてよかったですと思います。これからもまた、よろしく願いをいたします。

それでは、本日は私のほうから3件、報告をさせていただきます。

まず1点目に、能登半島地震への対応であります。

元日の16時10分、最大震度7、マグニチュード7.6の令和6年能登半島地震が発生をいたしました。

政府は11日、激甚災害に指定し、復旧事業を後押しすること、また、特定非常災害を決定いたしまして、運転免許証の有効期間延長など、行政手続の特例措置を適用、被災者の負担を軽減することとしております。

被災地では余震が続きまして、多くの方が不自由な生活を強いられ不安な日々を過ごされております。被災されました皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、お亡くなりになられた方々、ご家族に謹んでお悔やみを申し上げるとともに、行方不明者の一刻も早い確認を願うところであります。

被災地に対する支援についてであります。静岡市消防局では、総務省消防庁の要請に基づきまして、元日夜から緊急消防援助隊が第一陣65名を派遣しており、今週16日、火曜日には第六陣が出発をしております。この緊急消防援助隊は、原則、行き帰りを含め5日間の活動となっております。

り、牧之原消防署、吉田消防署からも各陣、各1隊が出動、人命救助などに当たっている状況であります。

1月11日には、第一陣、第二陣で被災地において活動し帰任をいたしました牧之原、吉田、両消防職員より現地での活動報告を受けたところであります。

第一陣は、石川県珠洲市までのルート確認及び救助活動を目的とし、第二陣では、救助活動を警察、自衛隊等と協力しながら実施したとのことであります。現地は、道路の陥没、ひび割れなどの被害が非常に多く、地元消防署と一緒に、倒木や瓦礫の処分を実施しながら珠洲市までたどり着いたということでもあります。

主な現地での活動につきましては、地震や津波の影響により二階屋根が道路上に押しつぶされている家屋等の中から被災者を救出することを優先的に実施したとのことであります。

被災地では水道の断水が続き、電話や無線が使えず、情報収集が難しかったこと、トイレと寒さ対策が一番辛かったと聞いております。現地派遣の教訓として、現場での情報収集と自助として日頃の備蓄品の準備の大切さを実感したとの報告でありました。

静岡県の支援につきましては、1月4日、総務省の要請により、石川県鳳珠郡穴水町を対口支援することが決定しており、穴水町からは、避難所運営についての職員派遣のほか、保健師、罹災証明の発行に係る職員を派遣してほしいとの要請をいただいております。

この件につきましては、市のホームページにも掲載しておりますので、また、ご覧をいただきたいと思います。

私といたしましては、被災地の支援は当然であります。有事の際に対応できるよう積極的に職員を派遣しておきたいと考えておまして、県が公表する市町派遣計画に基づきまして、職員派遣による被災地支援を継続してまいりたいと考えております。

市議会におかれましては、派遣の決定、出発などが随時対応となること、また、災害派遣に要する旅費等について、予備費の充用で対応してまいりますので、ご承知おきをいただきますようお願いいたします。

市民からの震災義援金、令和6年能登半島地震災害義援金につきましては、1月5日、金曜日から、榛原、相良両庁舎、健康福祉センターさざんかで受け付けています。

窓口には義援金箱を設置し、市ホームページ、市公式LINE、Teaメールで周知しているところであります。これにつきましても、市ホームページに掲載をさせていただいております。

担当は、福祉こども部社会福祉課となります。市民の皆様から義援金に関するお問い合わせがありましたら、ご案内くださいますよう、お願いいたします。

なお、現在、石川県への災害義援物資につきましては、企業、団体などからのまとまった規模の義援物資の提供を受け付けている段階でありまして、個人の現地への直接の搬入は、交通渋滞等により救命活動等の妨げとなることから、くれぐれもご遠慮くださいとのことであります。

個人からの物資提供は、品質確認や仕分け等に係る労力、手間を考慮し、対応が困難であるため受付できないということであり、義援金等による支援を検討いただければとのお願いであります。

すので、市民の皆さんから、もし問い合わせがございましたら、こういった被災地での状況を踏まえまして、ご説明いただきますようよろしくお願いをいたします。

それでは、担当から、現地の被害状況及び当市の対応等につきまして報告をいたします。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

総務部危機管理課から、石川県の被害状況及び当市の地震発生からの対応について、ご報告をさせていただきます。

石川県の被害状況についてであります。

昨日17日、午前9時現在、人的被害としまして、死者232人、うち災害関連死14人、負傷者1,037人、住家被害としまして、全壊、半壊、一部損壊を合わせて2万2,363棟、輪島市、珠洲市におきましては、現在も倒壊数の確認ができていないため、今後、住家被害棟数は増加すると予想されます。

石川県内の避難者数は約1万7,600人、約5万戸が断水が続いている状況であります。

静岡県が対口支援を実施しております穴水町は能登半島の中央に位置し、金沢市から約90キロ、人口7,890人、世帯数3,288世帯で、農林水産業が主な産業で。カキ、ナマコ、メバル、クロダイ、栗などが特産品となっており、2003年に能登空港が開港し、空港所在地は輪島市であります。滑走路の大半が穴水町内であり、穴水町市街地は、空港から最も近い市街地であるとのことです。

穴水町の被害状況についてであります。人的被害としまして、死者20人、負傷者245人、住家被害としまして、全壊、半壊、一部損壊を合わせて約1,000棟となっております。

次に、地震発生後の当市の対応についてであります。

1月1日の地震発生後、危機管理課職員が登庁し、情報収集を実施し、当地域でも震度3を確認したことから、16時45分に中部電力浜岡原子力発電所からの施設異常なしの報告を受けましたが、市民からの地震に関する問い合わせはありませんでした。

19時30分には、緊急消防援助隊第一陣65名を派遣する旨の報告を静岡消防局から受け、翌日、1月2日には、当市と災害応援協定を締結しております石川県小松市へ災害応援要請確認を実施し、応援要請なしの確認をしたところであります。

今後、当市の災害派遣につきましては、被害家屋認定調査、保健師派遣、罹災証明発行事務、避難所支援、本部支援、給水支援等の派遣要請に対しまして、職員派遣のエントリーを行っているところであります。

昨日、被害家屋認定調査へ、1月21日から1月29日の9日間、税務課職員2名の派遣が決定いたしました。

当市としましては、今後、県が公表する市町派遣計画に基づき、先ほど市長からもありましたように、職員派遣による被災地支援を積極的に実施してまいります。

報告は以上となります。

○議長（村田博英君）

質問は、3件ですので、全て終わってからにしたいと思います。

では、2件目をお願いします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

それでは、続きまして、2020年東京五輪サーフィン競技のホストタウン事業のレガシー創出や継承事業として設立、運営しておりますまきはらジュニアズ・アクションスポーツクラブ14名の小中学生が、昨年末12月26日、火曜日から30日、土曜日にかけて、2020東京五輪金メダリスト、カリッサ・ムーア選手が設立したムーア・アロハ財団がハワイで開催した、ムーア・アロハミニキャンプに参加をいたしました。

こちらにつきましてもホームページに掲載させていただいておりますので、また、後ほどご覧いただきたいと思います。

現地での交流や体験を経て、大きく成長し、無事に帰ってまいりました。今後のさらなる成長が楽しみであります。

私も、この合宿に同行する中で、ハワイ州のジョシュ・グリーン知事を表敬訪問し、マウイ島山火事に対するお見舞い、募金活動などの支援活動などについて会談させていただいたほか、ホノルル市リック・ブランジャルディ市長、在ホノルル日本国領事館、兒玉総領事を訪問し、牧之原茶やサーフスタジアムの紹介を行いまして、今後の連携、さらなる交流促進を確認してまいりました。

特に、牧之原茶の販路拡大には大きなチャンスであると捉えており、領事館にご協力いただき、商談会の開催などを計画していきたいと考えております。

なお、今後の交流といたしまして、4月早々には、カリッサ・ムーア選手とご家族が当市を訪れる予定となっております。彼女の希望といたしまして、日本の桜を見たいということですので、市内桜の名所をご案内するなどのおもてなしを通して、当市の魅力発信に努めてまいりたいと考えております。

また、12月には相互交流といたしまして、ムーア・アロハ財団の子供たちが当市を訪れる計画も立てられております。ぜひ、この交流により市の将来を担う子供たちの成長につながるなど、グローバル人材の育成に取り組んでまいります。

今後、カリッサ・ムーア選手、また、ハワイ州ホノルル市との文化、産業・経済面における交流・連携に取り組んでまいりますので、市議会におかれましてもご支援くださいますようよろしく願いをいたします。

現地メディアによる特集番組、動画がインターネットにアップされておりますので、ご覧いただき、担当から詳細を報告をさせていただきます。

○議長（村田博英君）

企画政策部長。

○企画政策部長（大石佳伸君）

今、市長の報告のとおりですけれども、改めて私のほうから日程、参加者等について、説明をさせていただきます。

日程につきましては、12月26日、火曜日から30日ということで3泊5日というような日程でございます。非常にタイトな日程で、丸々あるのが2日間というところで、非常に子供たち、そして同行の皆様にもタイトなスケジュールでご心配といたしますか、ご苦勞をおかけしたというところになるかと思っています。

主な日程等については、ホームページ等にも今掲載してございますので、割愛させていただきますけれども、年末の26日の2時にこちらを出発して、大体、羽田空港の出発が、ホノルルに向けて22時ということで、フライトは大体8時間から9時間ということでしております。

向こうに着いてからということで、その日は半日程度、そして、丸々27日と28日の2日間が主な日程となったわけです。

最終日につきましては、昼過ぎにホノルル空港を出発して、大体、帰りが9時間からそこらですけれども、中部国際空港セントレアのほうに入ってきてというようなことで、その後、バスで榛原庁舎に到着ということで、それは22時ということで、かなり遅い時間に到着となった次第でございます。

参加者につきましては、アクションスポーツクラブのメンバー、小中学生合わせて14人ということですが。

そして、11月10日ですかね、議会のほうにもご案内をさせていただいて、議員の方でご同行していただける方ということで、何にしても、その後、締切りが15日ということで、5日間ぐらいの間に皆様から同行いただける方ということで、ご案内させていただいたところ、2名の議員の方が参加いただいたということで、本当にありがたく思っています。

ですので、合わせて、これで16人、そして、市当局として市長と市職員3名ということで、私と福代課長と、もう1名ということで、全部で20人の団ということで行って来させていただきました。

議会からの支援金については1月11日の総務建設委員会で報告をさせていただきましたけれども、そのほかの詳細については市ホームページ等に写真をかなり入れて、今、仕立ててございますので、また、ご覧いただければありがたいと思っています。

そして、何よりも行ってきて思ったのは、今、市長のほうからもご案内がありましたけれども、現地メディアが非常に多く入ったということで、これは牧之原市のシティプロモーションにとって大きな成果だと思っております。

その中でも、今からお見せする4分ぐらいの動画なんですけれども、非常によくまとまっていて、子供たちの活動等が非常に分かるというような動画でございますので、すみません、お時間をいただいて、このタブレットのほうにも埋め込みをさせていただいておりますけれども、まずは、ここの少しスクリーンで見ていただいてということで、ご報告させていただければと思っています。

すので、よろしくお願ひします。

動画のほうをよろしくお願ひします。

〔動画視聴〕

○企画政策部長（大石佳伸君）

以上が、この動画ということになります。

先ほど申しましたとおり、新聞とかそういったものでも様々な紹介もされていますし、日本に戻ってきて、牧之原市に戻ってきて、この事業を積極的に皆さんに紹介をしていくということで、今、新聞等にもすごく売り込みを、セールスをしていますし、サーフィン関係のメディアにも、こんなことをしてきたよということで、売り込みをしていますので、ぜひ、そういったところでつなげていきたいと。

そして、先ほど市長が申したとおり、4月以降は、カリッサが、牧之原市なら安心だわねと、日本に来て安心だわねと、いわゆるハンドリングを持てるぐらいの形に、今、関係性がなっていますので、ぜひ、そういった関係性を生かしながら次につなげていきたいと、そんなふうに思っています。

以上、報告させていただきました。

○議長（村田博英君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

それでは、3点目のリニア中央新幹線の静岡工区の有識者会議、環境保全と大井川流域8市2町の首長との意見交換会について、報告をさせていただきます。

このリニア中央新幹線のトンネル工事が南アルプスの生態系に与える影響を科学的、工学的に議論してきた国の有識者会議は「リニア中央新幹線静岡工区に関する報告書（令和5年報告）～環境保全に関する検討～」を取りまとめ、令和5年12月7日、斉藤鉄夫国土交通大臣に有識者会議座長、中村太士北海道大学教授から提出をされました。

中村座長は報告書の提出に当たりまして、流域自治体に直接出向き、関係者や住民に分かりやすく説明することも必要との意向を示しておりまして、流域8市2町におきましては中村座長をはじめ委員と首長との意見交換会の日程調整を行ってまいりました。

結果、1月21日、日曜日、午後2時から島田市役所で開催することとなりましたので、出席してまいります。

出席者は、大井川流域市町首長及び国有識者会議、中村座長、大東委員、そして国土交通省村田鉄道局長、中谷施設課環境対策室長の出席を予定しております。

私からの報告は以上であります。

○議長（村田博英君）

市長報告が終わりました。

皆さんの質問等がございましたら、お願ひします。

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

市長報告をありがとうございます。

その中で、米国ハワイ州ホノルル市訪問についてのほうなんですけれども、すごい、今、見させていただいて、本当に子供たちが生き生きとして、すばらしい事業に取り組んでいるなというのを感じたところでございますが、その中で、事業費って、これからになるのかなとは思いますが、どんな感じになっていくのかなというのと。

あと、いい事業かと思えますけど、この課題、初めてやられることだと思うんですけれども、課題とかそういうものが、雰囲気とか、そういう課題とかがあったら今後の取組について、ちょっとお聞かせください。

○議長（村田博英君）

企画政策部長。

○企画政策部長（大石佳伸君）

お答えさせていただきます。

事業費については、今、議員がおっしゃるとおり、今、算定といいますか請求書がまだ届いていない部分もございますので、あくまでも概算ということで、ざっくりにはなりますけれども少しご報告をさせていただきます。

総事業費につきましては、今のところ、私のほうの計算でいくと大体680万円ぐらいということになっています。そのうちに、ただ、これは一般会計、個人の参加料の負担金を含んだ額でございます。その総事業費680万円の中で、参加料が子供たちから1人ずつ20万円掛ける14人で頂いていますので280万円、そして、少し高額になって申し訳なかったですけれども、議員の皆さんから1人35万円程ということで70万円を頂いていますので、それに合わせて、星いきいき財団のほうから30万円を頂いていますので、参加料と助成金を合わせると大体380万円程というようなことになっています。

そうすると、先ほど言った680万円から380万円を引くと、おおよそ300万円ぐらいが市の実質的な市費からの支出ということで見込んでいます。

その内訳を少しご紹介させていただきますと、職員の旅費についてというところが結構大きなものになってきますけれども、市長と職員の旅費3名を合わせると、大体1人25万円ということで、それで100万円程かかってございます。

そのほかに、あと残りが通訳代、そしてジョンさん、長谷川さんが同じフライトで行っていますので、そういった方のフライト代、そして、現地のいわゆる調整とかアテンドに係る委託料、そして、ムーア・アロハ財団のほうでいろいろコーディネートしてくださったものもあるものですから、そういったものを合わせると大体300万円程というようなことになっています。

あと少し申し遅れましたけれども、移動車両についても、やはり向こうでタクシーを借りる、大型車両を借りると1回50万円とかという形になるものですから、それぞれレンタカーを使って

というような形で移動をしましたので、そういったところに経費がかかっているということでございます。

この後、これから伝票、支出等をまとめて、しっかりした報告書をまたつくりたいと思っています。

あと、ホテルのお金等については、ムーア・アロハ財団のほうでアウトリガーホテルというホテルですけれども、そちらのほうはカリッサ・ムーアのほうで準備してくれたというようなことと、メニュー等についてもムーア・アロハ財団のほうで用意してくれたということで、考えていますので、これ全て入れるとかなり大きな額になってくるということは考えられますけれども、基本的に最小限の経費の中で対応できたと考えています。

それと、併せて、今、議員のほうからのご質問の中で、来年度に向けた課題でございますけれども、今回、できるだけ予算の中で行くということで、旅行代理店を入れていなくて、ジョン・オオモリとかがしつらえてくれたのを、市の職員がそれを実現化していくためにというようなことでやったものですから、非常に最後、帰ってくるまで冷や冷やといたしますか、そういった状況、緊張感が続いた状況でございました。

全てお膳立てをして、次はこれだよという形の中で本来なら旅行代理店がやってくれる部分もありましたけれども、そこを一切省いた部分の中で、職員が頑張ってくれてやってくれましたので、非常に安価の中で、旅行代理店を入れますと一気に1.5倍とか2倍とか桁がもう一つ上がってくるかというような状況になりますけれども、職員が頑張ってくれたかなと思っています。

その中で、やっぱり一つ一つ丁寧に行ったということになりますけれども、一つ例を少し紹介させていただきますと、向こうへ行ってレンタカーを借りるけれども運転手がないかもしれないよというような状況があったものですから、課長が頑張って静岡へ行って国際運転免許、私費で休暇を取って、3人分、私と課長ともう1人の職員の国際運転免許を取って、それはペーパーで取れるものですから、そのペーパーでもってということで、結局それは使わなくてよかったんですけれども、ずっとその緊張感、さっき言った緊張感の中で、左ハンドルで通行も違うみたいな形の中で、もし運転となったときには非常にどうかなというところがありましたけれども、そうしたいざというときのための備えを職員でさせてもらったということで、私たちも非常にいい経験になったかなと思っています。

それともう一つ、やはり海外ですので、非常に現場合合わせが多かったということで、丸々2日間の中で、タイトな日程で動いたということで、ハワイ州の知事に会うのも直前で日程が決まったということで、そのあった予定を前倒ししてということで、朝7時前に前倒しをしながら出発をして行った経緯もあります。

その辺も急遽決まる中で、同行していただいた議員の皆さん、そして市長等にもご迷惑やご心配をかけた点については本当に申し訳なく思っていますけれども、何にしても子供たち、そしてメンバーが安全に事故なく帰国できたということが本当によかったかなと思っていますし、これをぜひ牧之原の売りとして、これから、ぜひ発信をしていきたいと、そんなふうと思っています。

以上です。

○議長（村田博英君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

口頭で説明をありがとうございます。

事業費のほうは、また詳細がしっかり出てきましたら、また再確認をさせていただきます。

あとは、本当に、先ほどのビデオのとおり、いい事業をこれからも取り組んでいてもらいたいなという、そして、サーフィン文化をまた深めていてもらいたいと。

以上でございます。

○議長（村田博英君）

ほかはありますか。

私、1点だけ。

山火事の状況、その後どうであったかという、まだ少し大変じゃないかなと思うんですけども、そんなような状況をちょっと教えていただけますか。

企画政策部長。

○企画政策部長（大石佳伸君）

お答えさせていただきます。

行って見て、現地で感じたのは、やはり島が違うということで、それほど混乱はなかったかなと思っています。

ただ、ハワイ州の知事ということで、全体を見ていく中では、やはりマウイ島というところの惨状というのは、まだまだ復興途中だということでしております。

長谷川さん、ジョンさん等に聞いても、やはり現地、マウイ島についてはまだまだ復興途上であるということですので、できるだけそういった形の中でも、折を見て支援を続けていきたいと、そんなふうに思っています。

ありがとうございます。

○議長（村田博英君）

それと義援金ですが、些少ではあったんですが、皆さんどうでしたかね、反応は。

企画政策部長。

○企画政策部長（大石佳伸君）

この義援金については、やはり直接手渡すというところは、日本の自治体でも、自治体が出す、そして議会からもというような形でお渡しをさせていただいたわけで、本当に喜んでいただいて、これをぜひ活用していきたいということで言っていた、非常に喜んでいただいたという、すごく記憶が残っています。

以上です。

○議長（村田博英君）

分かりました。

植田議員。

○10番（植田博巳君）

能登半島地震に関連して、ちょっとお聞きしたいんですけども、静岡県が総務省の要請で穴水町ということになってはいますが、これから牧之原市は穴水町に対して基本的にいろんな支援をするというようなことで進んでいくのか、その辺の確認をさせてください。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

お答えいたします。

先ほど言った対口支援というのは、総務省が被災した自治体のパートナーを特定して決めて派遣をするという方式のことを言います。

ですので、静岡県は、基本的には穴水町を静岡県が守るという形で支援をしていくものですから、我々は静岡県の傘下に市町が入るものですから、静岡県の派遣要請に基づいて職員をエントリーして、静岡県のほうで、職員をどここの市町で何人くださいということが決定して職員を派遣していくという形になると思いますので、今の段階ですと、2月末ぐらいまでは避難所の運営に携わってほしいというようなことを県から通知をいただいていますので、順次そういう形になるのかなというふうに思います。

○議長（村田博英君）

総務部長。

○総務部長（大石光良君）

水道の関係については別のルートで、日本水道協会のほうからの要請が来ていますので、それについては珠洲市のほうを支援をするというような形になると思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

そうすると、水道は日水協のほうで珠洲市ということで、あと、ほかの支援については県の指示というか、対口ということで、穴水町でずっといくというような内容ですか。

分かりました。

それこそ、我々の牧之原市の真北に当たる能登半島、こっちは伊豆半島、非常に危機感を持っているんですけども、しっかりした支援体制をやっていただければと思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

そのほか。

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

リニア中央新幹線の関係ですけれども、非常に各、うちの市長も当然そうなんですけれども、首長さんたちご苦勞で、こういった会議でもしっかりそれぞれの立場の主張をしてもらっているんですけれども、ちょっと私、見ていて感じるのは、本来、地元それぞれの選挙区から出ている国会議員の先生方もしっかり入って、地域の声、また将来どうあるべきかということをもっと姿が見えたほうが、見えるべきだと思うんですけれども、首長さんたちと国会議員の先生方との、その辺の連携というか、地域の、その辺はどうなんでしょうかね。市長のお話しできる範囲で、報告をお願いしたいと思います。

○議長（村田博英君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

私としては、個人的にといいますか、井林先生とは常日頃から情報の共有を図っておりますし、様々な件に関してもご要望をさせてもらったりしておるところですから、その辺については十分ご理解されているだろうし、適切なアドバイスもいただいているつもりではありますが、流域の協議会として、国会の先生とという、その場というものはこれまでないものですから、またそういった意味で、こんなこともどうだというようなことについては、流域の首長には、また話をしていきたいなというふうに思います。そういった機会が設けられたらということも含めて、話をしていきたいと思います。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

なかなか、政治の話というのは行政の立場とは違うものですから、具体的な話というのは、しにくい部分もあるかと思うんですけれども、選挙になれば、知事選のときもそうだったんですけれども、市民向けのいい言葉を発するんですけれども、本当にこういう核心に入ってくると首長さんたちはご苦勞されているというのが見えてくるものですから、ぜひとも今、市長が言われたように、しっかり連携を取って、先生方にも、ぜひとも、うちだけじゃなくて、他地区の先生方と連携を取ってもらいたいなと、そんなふうに思いました。

○議長（村田博英君）

そのほかありますか。

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

能登半島地震の対応についても当然ありますが、旅費などについての予備費の充用で対応をこれからしていくということなんですけれども、どういう対応なのかお聞かせください。

○議長（村田博英君）

総務課長。

○総務課長（横山和久君）

今現在、向こうの現地まで行く、例えば、今入っているのが、金沢の駅で集合して、そこから現地へ行くというような段取りがあったりしているようなので、その派遣の要望によって、また違うかもしれませんが、そこまで行く旅費ですね、ここから向こうまで行く旅費、それと、またこっちに帰ってくる旅費ということで、そこら辺を見積もって新幹線代とかのほうの費用を充用していきたいというふうに考えています。

○議長（村田博英君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

支援のほう、長引けば長引くほど、やっぱり当然この旅費等も予備費の中から、予備費を超えちゃうということはないのか、そこら辺もちょっと確認させてください。

○議長（村田博英君）

総務課長。

○総務課長（横山和久君）

予備費については、財政課と今話をさせていただいているので、足りなくならないように対応していきたいというふうに考えています。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

基本的には、今回の費用につきましては、災害救助法の適用ができていますので、全ての派遣が終了した時点で、うちが派遣元のほうに災害救助法の適用のかかった費用の申請をします。そうすると、長いと2年後ぐらいになるんですが、1年後か2年後に精算した部分がうちのほうの財源として入ってくるという仕組みになっておりますので、今回の旅費等については全て災害救助法の適用の中で業務を行うと。一旦うちが立て替えて、その分を使わせていただくという制度になっておりますので、そこはご承知おきをいただければと思います。

○議長（村田博英君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

今回、能登半島の件が出ているんですけれども、昨年12月に避難訓練があったときの話なんですけれども、そのときに避難訓練で、中止になったわけなんですけれども、避難訓練じゃなくて医療訓練のときの、ぐりんばるであったトリアージの訓練をされているみたいなんですけれども、そこで住民の参加される方は、ぐりんばるへ行かれたと。要は、それでまた返されたという、そういうことがあったんですけれども、やっぱり周知、同報無線、そしてLINE等、中止ですよという広報はしているかとは思いますが、しっかりと周知をしていってもらいたいなという、本

当に津波注意報で中止になったということで、移動中に何かあったら非常に大変なことになるのかなと感じましたので、それで、要は事前にも地区連絡協議会等でしっかり周知のほうをお願いしたいところでありますが、いかがでしょうか。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

まず、医療訓練につきましては、健康推進部のほうで実施をした訓練となります。当日の朝、津波の関係で中止をするということで、多分、直接、福祉部局のほうから担当のそれぞれの機関にはご連絡を差し上げたというふうに、我々のほうは報告を受けております。

あと、各区の区長さんには事前の説明会も実施してございまして、こういうケースには中止にしますよということの周知もしてございまして、警報が出ているときは中止にしますよということでご連絡を先に差し上げてありましたので、多分、地区の回覧では回っているのかなというふうに我々のほうは、すみません、理解をしていたものですから、今後、そういったことについては、もう少し丁寧に、何らかの方法を考えながら中止の連絡をしていくような形を取りたいと思いますので、お願いいたします。

○議長（村田博英君）

絹村議員。

○3番（絹村智昭君）

LINE等で中止というのは、全ての訓練が中止というような広報の仕方を考えていったらどうかなというのを感じるころではあるところですが、中止は中止ということで、今後の対応をまたよろしくお願いします。

以上です。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

今回の医療訓練につきましても総合防災訓練の中の一つの訓練ですから、その部分だけピンポイントで中止にしますと言うと、また逆にこの訓練やります、この訓練やめます、この訓練やります、やりませんとなると、なかなか市民の皆さんも混乱をしてしまうものですから、今回は全てを中止という形で、ご連絡を差し上げたというふうに、我々のほうは理解をしております。

○議長（村田博英君）

名波議員。

○4番（名波和昌君）

能登半島地震への対応のところで、2点、お伺いをさせていただきますが、まず1点は、緊急消防援助隊は原則5日間の派遣ということなんですが、一般行政職員の人たちが穴水町に行く場合も同様なか期間が違うのかというところが1点と、避難場所等が相当逼迫している中で、援助

に行く人たちの宿舎あるいは食事等は、どういう形で対応されているのか、その点について、教えてください。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

まず1点目の消防緊急援助隊につきましては、議員がおっしゃられたとおりの日程で動いております。これは、署の勤務形態というものがあつたものですから、どうしてもそういう形を取らざるを得ないと。全てそうなんです、行きの日と帰りの日というのもその期日の中に含まれているものですから、実質動けるのは中3日とかという形の中の救助活動ということで伺っております。

一般職員の派遣の日程なんです、これはそれぞれ先ほど私がご説明したとおり、それぞれのセクションによって行く日数が違います。これは、相手側の市町の要請と、あとは静岡県が、今向こうで災害対策本部の中に一緒に入っています。そこら辺の状況を見て、こういうセクションについてはこういう人数がほしいよということで、宿泊日程は決めているというふうにご伺っております。

それから、宿泊先なんです、当初、被災が起つて一番最初は能登空港の会議室で、皆さん、寝袋で宿泊をしていたというふうにご伺っております。

現在は、今、静岡県がホテルを、金沢のほうまで下りてくるみたいなことは聞いているんですが、そちらのホテルを確保できている部分もあるものですから、実際には、男女の別を言つてはいけないんですが、能登空港の会議室だと、本当に皆さんでゴロ寝になってしまうので、女性陣だけをホテルのほうに持っていくとかということで現在は対応しているということなんです、二次避難が始まつた関係で、どうしても宿を石川県のほうが押さえてしまつているところもあつて、なかなか宿泊先を確保するというのも厳しいということなんです、県としましては、今後の派遣要員はできるだけホテルのほうで宿泊できるような体制を取つていきたいというふうにご伺っております。

○議長（村田博英君）

名波議員。

○4番（名波和昌君）

分かりました。

○危機管理課長（森田克彦君）

食事なんです、基本的には、一陣の皆さんは、まずこちらから全て持っていきました。今現在は、派遣要員については、静岡県のほうが向こうで食事は用意してくださつているというふうにご伺っておりますので、これから派遣する職員については、持っていけないということはないんですが、カロリーメイトとかそういったものを持参していくような形になるかというふうにご伺しております。

○議長（村田博英君）

名波議員。

○4番（名波和昌君）

分かりました。

ちなみに一般職員の方は、今、何名、向こうに派遣されていらっしゃるのでしょうか。

○議長（村田博英君）

危機管理課長。

○危機管理課長（森田克彦君）

県内の全体職員の数については、すみません、把握ができておりません。

牧之原市については、今現在、エントリーはずっとしていたんですが、ほかの市町が順番で行っているものですから、先ほど申し上げたとおり、今回の21日から29日の間に、初めてうちの職員2名が行くこととなります。

その後も、それぞれずっと期日は決まっています、エントリーは職員、ずっとしているんですが、県のほうがどういう形で牧之原市に要請をかけてくるかというのは、極端なことを言うと、前の日ぐらいじゃないと分からないものですから、準備をする職員も非常に大変で、明日から行ってまいりますよということになっているものですから、その辺は県にももう少し早めに連絡をほしいということは連絡はしているところであります。

○議長（村田博英君）

名波議員。

○4番（名波和昌君）

なかなか対応は大変だと思いますが、派遣される職員の健康管理についても、かなり心配なところがありますので、その点もぜひ当局の皆さんから対応していただきたいと思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

ほかは。

大石議員。

○14番（大石和央君）

リニアの意見交換についてですけれども、今回の有識者会議と8市2町の首長ですね、ここの意見交換の主催はどこになるんですか。有識者会議ということになるのでしょうか。

また、この会議は21日ということなんですが、傍聴可能なのでしょうか。

その点、お願いします。

○議長（村田博英君）

秘書政策課長。

○秘書政策課長（竹内英人君）

主催については流城市町ということになります。

傍聴については、基本的には考えておりません。

以上です。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

そうしますと、オープンでない中で、この意見交換が行われるということでしょうか。

○議長（村田博英君）

秘書政策課長。

○秘書政策課長（竹内英人君）

メディアには、こういう会議を、意見交換会をやるよということはお知らせしてありまして、最初の前撮り、それから会議終了後の取材対応はするという、そういうことになっております。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

やはり重要な有識者会議からの説明ということでもありますので、一般の市民も含めた形の説明というものが、意見交換というものが必要じゃないのかなというふうに思っていますし、これまでも、私はそういった会合においてはオープンにするということが必要かと思えます。

それから、また、有識者会議も県の専門部会もズームなんかでやってきた経過がありますので、そうしたことも配慮しながらやられるほうが、この間ずっと市民への説明がなかったわけなので、非常にいい機会でもあるわけなので、そういうことを考えますと、オープンにするということが最もいい形の意見交換じゃないのかなというふうに考えますけれども、いかがでしょうね。

○議長（村田博英君）

秘書政策課長。

○秘書政策課長（竹内英人君）

少し、議員のおっしゃっていることを確認させていただきたいのですが、今回は流域の首長が説明といいますか意見を交換する場を設定したということで、議員が今おっしゃられた市民の皆さんとかというものは、また別の形で考えなければ、一緒にはならないのかなというふうにも事務方としては思っております。

今回のタイミングは首長との意見交換の設定ですので、一般質問の中でも市長がお答えをしておりますが、また、JR、それから静岡県、国の最終的な方策が整理されて、そういった段階では必要だということで、いずれそのタイミングを考えなければいけないということは申し上げておりますので、今回そのタイミングかどうかというのは、またちょっと違うのかなというふうに思っております。

○議長（村田博英君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

二元代表制の中で、少なくとも、これまでは首長、議会が一体となって、このことについて、対応といたしますか、意見交換という形でされてくるということが望まれたというふうに思うんですね。

そのことを考えますと、一方の議会、少なくとも議会がこうしたところに傍聴もできないという状況をつくり出していること自体、現状の把握と説明というものが非常に不足するという状況になるのではないかとこのように思うんですね。

やはり同じような情報を共有するというのが、二元代表制の中で必要かなというふうに思うんですが、これがやられないということで、一般質問のところでも言いましたが、ここがやはり問題があるのかなというふうに感じていますので、今回そういった形でできないということであるならば、次回どういうふうになるのか分かりませんが、きちんと体制だけは取っていただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

秘書政策課長。

○秘書政策課長（竹内英人君）

決して、わざと外しているということではないというふうに考えています。それから、決して当市だけで何か物事を決めているわけではなくて、8市2町の中で、どうやってやっていくかということで決めていることですので、こういったご意見が議会のほうからいただいているということは、また8市2町の中では、事務方の中では共有はしていきたいというふうに考えております。

○議長（村田博英君）

そのほか。

〔「なし」と言う者あり〕

では、ないようですので、市長報告は以上といたします。

市長のほうから、3点の報告以外に、せっかくですから、ありましたらお願いします。

いいですか。

それでは、以上で終わります。

10分ぐらいですか。お集まり次第、トイレ休憩という形で取りたいと思います。お集まり次第、再開いたします。

〔午前 9時52分 休憩〕

〔午前 10時00分 再開〕

○議長（村田博英君）

それでは、ただいまより、議員全員協議会を再開いたします。

3 議長・関係議員・委員会報告 (1) 会議等の結果

○議長（村田博英君）

3番目としまして、議長・関係議員・委員会報告をいたします。

それでは、私から。

12月26日、榛原総合病院監査が行われました。介護認定業務事業、それから病院組合、これについての監査を行いました。両組合、事業会計とも問題なく事務処理も正確に行われておりました。

それから、静岡市消防局消防団夜警巡視を当日行いました。静波、勝間田、坂部、細江と、静岡市消防局吉田消防署と合同で巡視を行いました。

それから、1月1日、初日の出、相良サンビーチで行われました。参加された皆様、ご苦労さまでした。その足で静波海岸に同じように行きましたが、同じような人出がございました。なかなか穏やかな初日の出で、人出が出ておりました。

それから、4日、牧之原市賀詞交歓会が行われました。

6日、榛南経済同友会が行われました。

7日、はたちの集い。参加者380名を代表し、柳 愛乃香さん、大石竜太郎さんが決意を述べました。

それから午後ですが、消防団の出初め式ということで438名が現在在団しておりますが、条例規定数490名に52名足りないという状況でございます。このことに関しまして、ぜひ皆様に協力をというお話がございました。

それから、10日、県庁へ新年挨拶に行つてまいりました。川勝県知事、それから出野副知事、それから森副知事にご挨拶をしてまいりました。川勝知事は、持論であるユネスコは国の認定だと、ところがリニアは民間だというようなことで、相変わらず持論を述べておられました。

11日、西部地区議長協議会が焼津市で行われました。これに関しまして、2議案出ておりました。特別支援学校・学級への適切な教員等の配置についてという要望書、それから、第2号議案で、自治体情報システムの標準化、共通化における自治体に対する負担軽減について、この2議案が出ておりました。可決されました。

それから、1月15日、16日、17日ということで、お疲れさまでございました。人吉市、薩摩川内、川内原発ということで、人吉市は友好都市ということで、また今後も続けていくようにというお話をしてまいりました。それから、薩摩川内は小中一貫校、それから跡地の利活用ということで、お話を承つてまいりました。ご苦労さまでした。

以上でございます。

そのほか、皆様から報告をお願いいたします。

植田議員。

○10番（植田博巳君）

12月26日です。例月現金出納検査、そして、財政援助団体の監査。今回はシルバー人材センターですけれども、実施しました。

以上です。

○議長（村田博英君）

ほかは。

〔「なし」と言う者あり〕

3 議長・関係議員・委員会報告 (2) 議会運営委員会

○議長（村田博英君）

それでは、次、議会運営委員会、報告をお願いします。

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

まず、議会運営委員会、1月5日でありますけれども、まず、11月定例会の振返りということでございますけれども、特にありませんでした。

次に、牧之原市議会におけるDXについてであります。資料がついておりますので、資料1のほうを少しご覧いただきたいと思います。

この資料の真ん中辺りに1がございますけれども、1のところからご覧いただきたいと思ます。

1、議会におけるDC活用方針とあります。この活用方針につきましては、大きく二つの柱で構成しております。

一つは(1)として、議員・議会事務局間におけるDC活用、(2)外部有識者や住民など議会外との間のDC活用であります。

まず(1)であります。①として、非常時であります。コロナ禍や災害時などにおいても審議を実質的に深める場である委員会を開催できるようになる。

②平時であります。育児・介護等の理由により委員会審査に出席を果たすことが困難な事情がある場合、その議員が委員会に出席できるようになるというものでございます。

次に二つ目の柱が、①子育てや家事で忙しい女性やデジタル技術に慣れた若者の声を聞く手段として、オンライン意見交換会を組織として行うことを目指すというものであります。

②としましては、効率化や経費削減だけではなくて、多様な住民の議会への参画や住民に開かれた議会の実現に資するようデジタル技術を積極的に活用すると、そういったものでございます。

次に2の調査研究に係る主な対応方策(例えば)でございますけれども、(1)オンライン委員会に関する規定の整備。次に、(2)オンラインで住民との意見交換や、議会の役割等への理解を深めてもらうため、議員と高校生との意見交換を実施すると。

3の対応方策検討の進め方では、先進的な取組の情報を議会間で共有することから始めたらどうかということでございます。

そして、付記でありますけれども、議会改革特別委員会検討項目の抽出方法等については、議会運営委員会は改革検討項目の抽出・方向性を定める。そして、議会改革特別委員会は、改革項目の検討、そして、検討結果に基づく対応ということでございます。

以上でございます。

次に、ウの令和6年度議会報告会についてであります。こちらについても資料2のほうをご覧くださいと思います。

議会改革特別委員会について、Aグループの検討報告書になります。

調査事項というところで、議会報告会の改善についてを見ていただきますと、1として、議会報告会における市民との意見交換会の在り方、二つ目としては、議会報告会の開催スケジュールの見える化、そして、3としては、高校生を対象とする議会報告会の開催についてであります。

それぞれ概要、方向性、効果、検討結果についてまとめられています。

そして、次に資料3のほうをご覧くださいと思います。

議会報告会スケジュール（案）になります。

5月開催と10月開催の日程案、その内容について、まとめられています。

議運では、この資料2と資料3の報告内容を踏まえて話し合いましたけれども、令和6年度につきましては、10月開催ということで準備をしていこうということといたしました。

その主な理由としては、事前準備を十分にいき、進めたいということでありまして。

もうちょっと細かく言えば、自治会の役員交代があったりとか、高校生を対象とする議会報告会の開催については、高校側との調整等、高校側の考えを聞く必要があるのではないか、そういったことを十分に行わなければならない。そして、またDXも進めていくということでもありますので、この報告会へDXをどう取り入れるかなど、また、市民へのしっかりとした説明が必要であるということから、10月開催ということで準備をしていきたいというふうに考えております。

次に、その他でありますけれども、二つございます。

まず、一般質問に関する研修会の必要性についてであります。研修会を開催したらどうかというご意見がございました。

二つ目は、全議員による火葬場施設の視察研修についてであります。今後やったらどうかと意見がございました。

具体的には濱崎議員のほうから火葬場施設の視察研修の実施について、ご提案をいただいておりますけれども、濱崎議員につきましては、地元の検討組織に参加している立場もあり、そういったお持ちの情報等を含めた中で、ご提案がされたものと思います。そういった部分でのご提案でございましたけれども、報告は以上でございますけれども、特に火葬場施設の視察研修については、ここで改めて、濱崎議員のほうから、少し意図的なことをご説明いただけたらありがたいなと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（村田博英君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

今回の火葬場の新しい施設の視察ということで提案をさせていただきましたけれども、私は川崎区の火葬場の検討委員会のほうに参加させてもらっておりまして、それこそ、ちょうど1年ぐらい前ですか、区のほうで新しい施設の視察に行くということで声をかけていただきましたけれども、議員私1人だけ行くのはどうかなということも思いまして、そのときの植田議長に相談させていただいて、行くのであれば全議員で行っていただきたいということで、お話をさせていただきました。

それで、その前提といたしまして、まず、候補地が決まった後でない、いろいろと問題も出てくるだろうということで、決まった後ということでお話をさせていただきました。そうした中で、今回、候補地が決まったものですから、ぜひ全議員で新しい施設の火葬場というのはどういうものなのかというのを見ておいたほうが良いと。

これは、川崎区の検討委員の皆さんが行かれた中で、やはり現状を、今の新しい施設というものは見ておくべきだということでご意見もいただきましたし、やっぱり議員という立場であります、市民の皆さんからいろんなことを聞かれる立場にあると思うものですから、こういったものに関しては見ておいたほうが良いというところで、今回、提案をさせていただきました。

○議長（村田博英君）

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

ありがとうございます。

そういったことを踏まえてのご提案だということでございました。

以上でございますけれども、今の点を含め、その他全体でご意見があれば、お伺いをいたしましたというふうに思います。

○議長（村田博英君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

今、ご報告がありましたけれども、デジタルトランスフォーメーションのほうの、調査研究に係る主な対応方策という中で、2番目のオンライン意見交換会というのが報告がありましたけれども、オンラインで高校生との意見交換会を実施するというふうにありますけれども、先ほど議会報告会のほうでも高校生との意見交換会を実施していくということでありますけれども、どれくらいの、オンラインのほうでは計画としては、今考えている中では何回ぐらいを予定して、議会報告会との違いというのかな、その辺はどのように考えているのか、教えてください。

○議長（村田博英君）

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

まず、高校生との意見交換会については、議会報告会でやっていこうということでございます

が、詳細の、何回とか、今言われました具体的な仕分けみたいなことについては、議会改革特別委員会の中で、ある程度の素案を示して、ご意見を伺い決めていきたいということでございますので、今議運の中でこの点について深めたものではございません。

○議長（村田博英君）

よろしいでしょうか。

○13番（中野康子君）

そうすると、議運の中で、大体、方向性を決めていくということであるのは当たりまえなんですけど、委員長としての考えというようなものをしっかりとした形で見せていただきたいというふうに思います。

○議長（村田博英君）

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

一つ、今、論点として、議会報告会の中で、今の形の中で高校生も入れ込んでやるというパターンと、議会報告会は議会報告会という今のような形の中で、さらに、そこに課題とすると、多様な人が入ってくるという、その多様な中の1人に高校生などが加わって報告会をやるという、その形は十分考えなくちゃいけないと思います。

もう一つ、これは皆さんのご意見を踏まえての話になりますけれども、議会報告会を少し別の形で、高校に出向いてやるとかというようなことになると、テーマそのもの、そして、その全体のプログラムの構成、そういったものも少し改めて考える必要があるというふうに思います。

今回は10月開催ということで、一応の案を考えておりますが、実は3年生とか、また、高校側の意向というのは全く聞いてございませんので、さらには校長先生の考えもあるでしょうから、そこは、まさにそういった皆さんのご意見を伺う中で、議会改革特別委員会で方向性を出していきたいというのが私の考えでございます。

○議長（村田博英君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

昨年、私たち委員会のほうでも、学校側の考えている様々な行事、それから高校生の考え等、いろいろ言っていただいております。そういった中で、いろいろ分析をして、ぜひ、いい形にしていっていただきたいというふうに思いますので、また、よろしくお願ひしたいと思っています。

○議長（村田博英君）

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

まさに、とても重要なことだと思いますので、また、ご意見を伺い、進めさせていただきたいと思っています。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

質問でいいですか。いつもだと全部の報告が終わってからなんですけど、今の委員長報告に対してここでやればいいんですか。議運の委員長に。いいですか。

火葬場の視察のお話、濱崎議員のほうからも報告がありましたけれども、火葬場の建設に当たっては、当然、議会も視察するという事は大事な事だと思います。

ただ、前回、地元の皆さんと一緒に視察をというのは、恐らく川崎区とすると、こういった施設ができるよということで、用地を区としてどうするかということの材料として、多分、視察を行ったと思うんです。

今回、我々が、この議会が求められているのは、12月20日に市長から火葬場の建設について、吉田町、また御前崎市との関係の報告がありました。

その中で、意見も出ましたけれども、一番大きな問題は、牧之原市がこの20年かけて、市長がずっと訴えてきた1市2制度の解消、牧之原市は1市2制度の存在が一番重しだということ、ずっと言っていたんです。

だから、今回まさに12月20日に市長が報告した中では、全く1市2制度の解消につながる報告じゃないんです。だから、私は、まずは議会が今すべきは、火葬場の建設をどうだということ、どんな形でやっていくかということ、この議会としてしっかり認識することで、それが決まってから、しっかり、どういう火葬場を造るんだということで視察するなら賛成ですけれども、今の段階で新しい火葬場を視察というのは議会としてどうかなという、私は疑問を持っています。

以上です。

○議長（村田博英君）

それについては、私の考えをちょっと述べますと、タイミングがあると思うんですね。今言ったように、どこに行くかということもありますけど、ちゃんとした計画ができてからでないと、この話は議運でも若干出たんですけれどもね。

そういうことで、もう1回議運に諮る必要があるかなと。行くことのタイミングについて。行くこと自体は、私はいいと思います。

委員長、それでいいですか。

○議長（村田博英君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

それこそ、視察なんですけれども、タイミングを逸しちゃうと、逆にブーイングが出ると思うんですよ、市民の皆さんから。計画がどんどん進んでいっちゃうものですから、ある程度、全部決まってからやるよりは、このタイミング、施設の候補地が決まったタイミングで行かないと、何やっているんだということで突き上げを食らうと思うんですよ。

実際に、自分が検討委員会に出ているので分かるんですけれども、いろんな地元の人たちから

も聞かれるんですよ。議員は見に行ったのかというふうに聞かれるんですよね。

それはやっぱり自分たちも絶対に聞かれますから、ちゃんとそうした施設へ、関わっているのかとかね、そういったところ等の施設、新しいものを見ていなくてそれを誘致する。だから住民感情から言うと、何で吉田町じゃないんだとか、何で牧之原市なのかというようなことが出てくるわけですよ。

そういった施設を考えると、川崎区云々だけじゃなくてこういった施設を牧之原市で受け入れるということ自体が、議員が新しい施設というものを分かった上で、そういうのをやっていかないと、それはまずいと思うので、これは早めに動かないとまずいと思いますよ。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

濱崎議員が地元の議員として非常に今までご苦労されてきた、それは十分理解できますし、そのとおりでと思います。

ただ、私が言っているのは、12月20日に市長から報告があって、それで、翌日に静岡新聞に掲載されて、皆さん、ご覧になったと思うんですけども、あたかも議会の中でのいろんな意見が、というのは全くないんです、あの記事の中で。御前崎市も合意している、吉田町も牧之原市も合意しているという、こういう平面的な記事で、1月中には覚書を交わすということで、それを市民が見れば、当然、今、濱崎議員が言うように、もう決まったということで、確認ができたということになるんです。

でも現実にはやっぱり全く違うところにいると思うんです。というのは、本来なら、今日もその覚書について、しっかり、覚書するときは当然議会でもこういう形の覚書だということで確認しなければならぬ、それがまず議会としてやる大事なことだと思うんです。

それが全く、今日はないということは、恐らく、なかなか新聞記事の見たとおりにはないというのが現実だと思うんです。

あえて質問をしなかったんですけども、恐らく、当局でも大変なご苦労を今されていると思うので質問もしなかったんですけど、それが確認できないと、私はちょっと、今の段階でというのは、議長が言われたように、タイミングというのが一番大事だと思うんです。ということです。

○議長（村田博英君）

加藤委員長。

○5番（加藤 彰君）

今の太田議員が言われた点、そのとおりでと思います。そして、濱崎議員が言われている点については、考慮しなくちゃいけないというふうに考えます。

ただ、いずれにしましても、前回、地域の方が現場を見に行ったという、その目的は、反対者がいる中での合意形成に向けての視察研修という面が強かったんじゃないかなというふうには思

います。

ですので、今回はその辺の状況が変わっている点、そして、今、議長が言われるような建設時期の問題、そういったことも踏まえて、議会としての行く目的をしっかりと定める必要があると思います。

ですので、もし、議長のほうで事件として議運で取り上げるということであれば、議運のほうで資料も用意した中で、やはり検討させていただきたいと、そのように考えます。

○議長（村田博英君）

私もそう思っておりますので、もう一度、検討のタイミングを図ることとしたいと思います。

3 議長・関係議員・委員会報告 (3) 総務建設委員会

○議長（村田博英君）

次は、総務建設委員会、お願いします。

濱崎委員長。

○9番（濱崎一輝君）

1月11日に委員会を開催いたしました。

総務建設委員会では、今回、二つの所管事務調査事項のテーマを決定いたしましたけれども、まず、地域資源を活かした農業振興からということで、スタートしていきます。

それに当たって当局と勉強会の開催を予定しておりますけれども、それに当たって各委員会の皆さんから、委員の皆さんから質問事項などについて、意見を提出してくださいということで、来週1月22日までの期限ということで提出してもらおうということで確認をいたしました。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (4) 文教厚生委員会

○議長（村田博英君）

谷口委員長。

○2番（谷口恵世君）

文教厚生委員会です。

同じく1月11日に文教厚生委員会を開催いたしまして、大テーマについては決まりまして、それに基づき、2項目くらいに細かいテーマを決めていくということで、各委員からご意見をいただきまして、今、正副でそのまとめにかかっております。

また、次回の委員会で、その2項目について、これから当局側の各部・課に確認をする予定でおります。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (5) 議会広報特別委員会

○議長（村田博英君）

議会広報特別委員会。

種茂委員長。

○8番（種茂和男君）

令和6年1月9日9時に、「かけはし」第73号の原稿編集について、表紙から順に確認していただき、一般質問については、それぞれ内容確認を担当を決め、割り振り、本日の委員会で確認するようになっております。

それと、あと、研修視察は委員会改選もあり日程もなかなか取れなかったもので、従来の一泊二日の研修をやめ、1月31日10時から13時、14時から17時のオンライン受講を実施、対応するように決まりました。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 （6） 議会改革特別委員会

○議長（村田博英君）

議会改革特別委員会。

原口委員長。

○15番（原口康之君）

前回というか、次回から、一応、議運のほうからDXについてということで、前回の議会改革特別委員会から、高校生とかいろいろ載っている部分もありますので、今回示させていただいた内容でこれから進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

4 協議事項

○議長（村田博英君）

その次、協議事項は、特に上がってはおりません。

5 その他 （1） 行政視察の受入について

○議長（村田博英君）

5番目のその他ですが、行政視察の受入について、先日行ってまいりました人吉市議会の議長さんから申出が来ております。

植田係長。

○事務局書記（植田容子君）

それでは、行政視察の受入ということで、今、議長のほうからも少しお話がありましたが、今回、人吉市議会の議長さんが、2月7日に浜松市で会議があるということで、前日に静岡入りをするというのでして、ぜひ牧之原市の取組について視察を行いたいということで、お話をいた

できました。

日時ですが、2月6日の火曜日、14時から。視察をしたい項目の内容ですが、学校再編についてということで、主には学校再編における対話による協働のまちづくり、この辺りを視察をしたいよということで、お話を受けております。

当局とは調整済みで、快く引き受けてくださいましたので、6日の火曜日、14時から、この視察を行う予定です。

私たちも人吉のほうに行かせていただいて、大歓迎を受けたと思いますので、その辺も考えまして、当日なんですけど、送迎や市内の案内、それらの対応を、またしていきたいと思います。ご承知おきいただきたいと思います。

以上です。

○議長（村田博英君）

お1人なので、私に対応するということになります。

それから、もう1件、ここにはありませんが、「平太さんと語ろう」というイベントがありますが、これについて。

○事務局書記（本杉周平君）

私のほうから少し説明させていただきます。

夏に当初予定をしておりました知事広聴「平太さんと語ろう」ということで、8月ぐらいですかね、予定をしておりましたが、台風の接近により延期になっていたものになります。

それにつきまして、担当課、秘書政策課のほうから情報提供がございまして、少し日が近いんですが、令和6年1月25日、木曜日、午後1時から午後2時半までということで開催のほうが決まったということでございます。

会場につきましては、坂部区民センターという形になっております。

チラシをいただいておりますので、状差しのほうへ入れさせさせていただいてございます。また、詳しい内容はそちらでご覧いただければというふうに思いますが、担当課のほうから、一応、議員さんの席のほうは設けてあるということで、出席のほうをできれば確認させていただきたいというお話がございました。

事務局の机のほうに出席確認表を置かせていただいておりますので、日が近いものですから、もしよろしければ、今日、お帰りになられるときに、丸なりを記入いただければありがたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（村田博英君）

植田議員。

○10番（植田博巳君）

先ほどの行政視察なんですけれども、大変、歓迎をしていただきましてありがたいと思うんですけれども、今度、行政視察ということで、議長さんが1人お見えということなんですけれども、

議会のほうの対応というのは議長対応となるのか、そこら辺はどういうような感じで受け入れられるのでしょうか。それをちょっと教えてください。

○議長（村田博英君）

1人なので、事務局とも相談して議長対応ということでなりましたので。そうしたいと思いません。

石山議員。

○1番（石山和生君）

今の視察の話で、友好都市の交流って、そもそもの目的は何だろうなみたいなことを考えたときに、友好都市でこれだけ交流しているから何かあったときに助け合いましょうみたいなところが一番大きかったのかなと、今回の視察に行つてすごい感じたところなんですけれど。

というところを考えると、議長が1人来ましたというところに対して、こんな歓迎してくれるのかみたいなのが必要なんじゃないかなとは少し思ったりしたんですけれど、そこら辺、まだここで結論を出す必要はないと思うんですけれども、1人なのに、こんなにしてくれたんだ、何かあったらお互い助け合いましょうねという、そういったことが必要なんじゃないかとは、私は思ったので、意見を出させていただきました。

○議長（村田博英君）

ちょっと考えてみたんですが、ついで感が強いので、次の日に浜松で会議があつて、その前泊で、せっかくだから牧之原市へという、ついで感が強いので、そんなに。いいのかなと。

当日も、15日の懇親会のときも、周りにはあまり知らなかったみたいな雰囲気なので、思いつきとは言わないけれど、こっちへ来るからということが強いんじゃないかなと思います。

植田議員。

○10番（植田博巳君）

行政視察と書いてあつたので、表敬訪問の中でこういった学校再編についてということをお聞きになるのかなと思ったのだけれども、行政視察と銘打つてあるので、石山議員も言っていましたけれど、そこら辺がどうかなと思ったのだけれど。

○議長（村田博英君）

行政視察なんだろうね。

中野議員。

○13番（中野康子君）

挨拶の中で、わざわざ2月6日に牧之原市にお邪魔するというのを公の場で言った以上、やはり、議長も議長裁断でやってくれるのはいいけれど、やっぱり歓迎の気持ちだけは何らかの形で示したいので、お出迎えとか、それくらいのあれは皆さんでして差し上げてほしいんじゃないかなというふうに思ったんですけれども。

○議長（村田博英君）

正副ということになりますけれどもね。

局長。

○事務局長（田形正典君）

皆様のご意見で、夜のほうもあると思いますので、今、皆さん、そういう意向なら決めていただければ、場所も取ることもできますので、向こうの事務局とも相談をしたいと思いますが。

○議長（村田博英君）

木村議員。

○6番（木村正利君）

夜のほうは別にいいと思うんですけど、やっぱり歓迎の意味では受入れを、もし、学校再編のことなので、私的にも、その場に、議会で対応したほうがいいんじゃないかなというのは、私は思います。別に、夜は僕らは結構ですから。

○議長（村田博英君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

そもそも、議長も話をいろいろしていたんですけど、時間ができたので立ち寄ると言っていたんですよ。だから、この行政視察は行政視察で、こういう形で取ってもらったのはそれはそれでいいですけど、立ち寄るのでこういう形を取ったのか、あくまでも行政視察ということで、正式に議長のほうからあったのか、そこってやっぱり結構大事なところじゃないかなと思うんです。

粗相のないようにちゃんと出迎えること、これは大事だと思うんですけども、その形がどうかかと、ちょっと。

だから、それを立ち寄るといって、時間ができたから立ち寄ると言っていたから、どうかなと思ったんですけど。

○議長（村田博英君）

一応、行政視察ということで来ておりますので、こういう形で予定をしたいなと思います。

本杉さん。

○事務局書記（本杉周平君）

手続的には、行政視察申込書ということで送られてきてはおります。

向こうの担当の方とお話しした限りでは、議長からお話もございましたが、まず浜松で会議があると。こちらのほうが、事前にお伺いをする予定が決まっていたので、ぜひ、せっかくですので寄らせていただきたいというような形で、お話がこちらにあったということでございます。

もう少し詳細をご報告しますと、飛行機で来るのか新幹線で来るのか、少しそこまでは決まっておりませんが、そこまでの送迎はこちらでやらせていただくつもりでおります。市内に宿泊する予定もあるということですので、そこについても、こちらのほうで全て送迎等をやらせていただこうかなというふうに思っているところでございます。

少し局長のほうからお話もございましたが、せっかくこちらにお見えになりますので、夜とい

いますか、懇親会のほうも設けたらどうかなということで、こちらのほうでは考えているところでございますが、その出席者についてはまだ全然決まっておられませんので、そこはまた今後、議長等と含めて少しご検討をさせていただければというふうに思います。

当日の歓迎については、こちらのほうではそこまでは考えていなかったところがございますので、当日の歓迎を、もし全員でということであれば、この場でそう決めていただきましたら、その辺はまた対応したいかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

○議長（村田博英君）

そういうことで、視察受入れという形でやりたいと思いますが、全員参加して受け入れするかどうかというのは。

○14番（大石和央君）

都合がついて参加したいという人がということで、そんな形でいいんじゃないですか。

○議長（村田博英君）

参加自由ということでお願いしたいと思います。

夜は、正副議長で対応するということでしたと思いますので、そういうことで。

あと、もう1件。能登半島の地震の支援の件なんですけれど、やはりお金が一番有効だろうなということで考えておりますが、長引く避難とか、被害がまだ延々と続いているようなので、早くやりたいんですけれど、その受入窓口が、今ちょっと事務局とも話をしていますが、全国議長会でまとめてやるかどうかとか、そういう動きがございますので、決まり次第。

赤十字に入れると手数料も取られるみたいなので、そういうふうに聞きました。ですから、この間の西部の議長会のときに皆さんに聞いたら、皆さん出すと。出すんだけど、窓口が決まっていないので、それを至急決めてもらって出したいということで、決まり次第ですね。

それで、ハワイのほうにも出しておりますので、共済会のお金をちょっと調べたら、心配になったんですけれど、まだそれぐらいはあるということなので、そちらから出させていただくようにしたいと思います。それがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

中野議員。

○13番（中野康子君）

各自自治体でも出したい、議員のほうで出したいというお話がある。そうしたら、静岡県の市議会議長会の会長さんというのがいると思うんですよ。そこの方のあれで集めるようにしたら一番分かりやすいと思うんですけれどもね。何かそういう形をお願いしてみたらどうでしょうかね。

○議長（村田博英君）

ばらばらに出すよりも窓口をね。そういうふうに考えておりますので。

種茂議員。

○8番（種茂和男君）

今のお話の件で、議会広報特別委員会のほうでも、第73号の記事にそのような内容を検討している最中ですから、対応が決まり次第、そういった記事を書きたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（村田博英君）

よろしくお願ひします。

以上ですが、事務局いいですか。

それでは、以上で議員全員協議会を終了いたします。ご苦勞さまでした。

[午前 10時39分 閉会]